

食品摂取時の情動に基づいた食品分類の試み

－食品のおいしさの定量化を目指して－

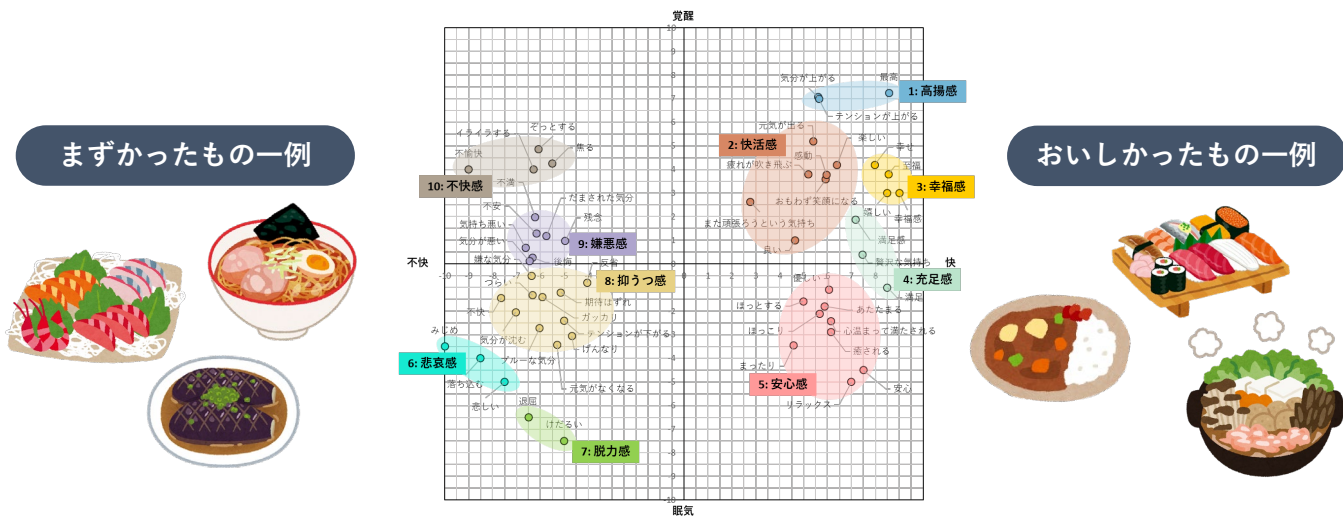
成果の特徴

- 食品摂取時の情動に関する語句を二次元座標上で数値化し、視覚化しました。
- このように定量した情動語句を使って、食品と食品を摂取したときの気分の関係について調べました。

成果の内容

“快－不快”、“覚醒－眠気”の二軸からなるラッセル円環モデルに基づいて、食品摂取時の情動語句をアンケートによって評価してもらいました。さらにこの語句を使って、印象に残ったおいしかったもの（まずかったもの）とそれを食べたときの気分についてアンケートを実施し、食品ごとのおいしさ（まずさ）の特徴の違いを調べました。

ラッセル円環モデルに基づく食品摂取時の情動語句の座標とクラスター分布



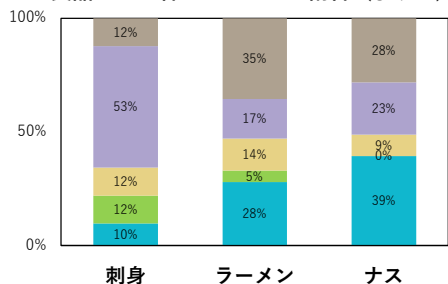
まずかったもの一例



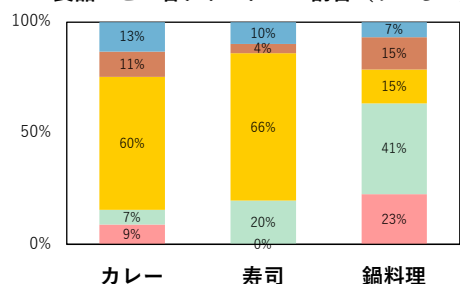
おいしかったもの一例



食品ごとの各クラスターの割合（まずい）



食品ごとの各クラスターの割合（おいしい）



成果の活用

情動に基づいた食品の分類によって、質の異なる食品のおいしさ（まずさ）を定量化することで、気分に応じた最適な食事の提案が期待されます。

本研究成果は日本認知心理学会第19回大会にて発表しました。

※株式会社ニチレイフーズとの共同研究の成果です。